

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

令和7年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸中学校
実施日	2月6日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・1学期の学校評価のあとの検討の時間を終業式のあとか夏の研修に設けることでPDCAにつなげていくことで改善を目指す。 ・全体の確認事項については、足並みを揃えて実行していく。個人の解釈で変えないように確認と縦、横のつながりで互いにチェックしていく。 ・部会を情報交換に終始せず、具体的な取り組みについて議論する部会へ。急遽の対応については各担当で集まって対応を考えられるような組織を構築する。	A	・目指す学校像が周知されていると感じられる。目指す学校像の実現に向けて、PDCAサイクルを意識的に位置付け、改善につなげようとしていることがよくわかる。 ・検討時間の確保など、計画的・組織的な取組が具体化されていると感じる。 ・目指す学校像の職員、保護者への共有がなされ、取り組みとして充分であると評価できるため全体で同じ方向を向きつつある印象があるのでさらに浸透するとよい。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	B	・危機管理マニュアルを確認し、年度当初の職員会議でデータで共有する。 ・来年度は不審者対応の避難訓練を実施する。2学期始めの短縮日課時に実施をする。 ・自転車通学の生徒は確実にヘルメットの着用ができている。プライベートでのヘルメット着用については、年度当初の保護者会で保護者向けに呼びかける。保護者向けに通知を出す。 ・夏休み中に備品点検を実施し不要物に関しては積極的に廃棄していく。 ・安全点検で故障箇所や危険箇所は報告をし、修繕を依頼する。	B	・避難所に指定されていることもあるので、非常に役立つ活動(例えば非常トイレの作り方、使い方など)も検討してほしい。 ・危機管理マニュアルの共有や年度当初の確認を通して、災害や事故に備える体制づくりが着実に進められていると感じる。 ・不審者対応などにおいて、実効性のある取り組みに課題がある。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	・帰りの会終了の時間を考慮して最終下校の時間を設定していく。18:00最終下校でもその前に設定してガイドラインを遵守していくような体制を作る。 ・ふれあいデーについては意識させる声掛けをして、その日は帰れるように計画的に仕事ができるように声掛けをしていく。	B	・改善されているとは感じられるが、更にすすめてほしい。 ・部活動の実施期間や時間に差がある。 ・最終下校時刻の設定を見直し、ガイドラインを意識した運用など、働き方改善を具体的に進めようとしている。引き続き組織的に進めていただきたい。 ・行事や部活動において全体で負担を軽減し、改善できる課題がある。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	・月1の研修や子供から学ぶという意義の確認をしながら一つ一つの課題について改善していく。 ・4人組のデメリットとして意見があがっている「話を聞く姿勢や態度」なども授業改善のヒントにつなげていく。 ・授業研究の負担感はいつもの授業を公開し合って改善していく。	A	・グループで授業を受けることが目的になっているように見受けられる場面がある。更に授業研究などを通じて、格差をなくしていったほしい。 ・「子供から学ぶ」という視点を大切にしながら授業改善を重ねていることが分かる。 ・4人組での学びにおける課題を前向きに捉えること、日常の授業を公開し無理のない形で進めていることも大切な視点だと感じる。 ・グループ学習を継続的に実施しており、生徒アンケートからも、生徒の理解が進み、意欲的に取り組んでいることが伺えるため生徒中心の授業がかなり進んできたように感じる。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	・挨拶指導については、朝の立哨指導を、生徒指導担当だけでなく全体で行うよう努める。無理のない範囲で、昇降口や学年フロア等校内でも行う。 ・支え合う学級づくりについては、年度当初や学期初めの学級活動を充実させる。 ・発達段階に応じたSSTなどの系統的に実践する。 ・SOSの出し方については、道徳の授業に限らず、集会等でも全体に指導する場がある。 ・委員会のあいさつ運動を正しくさせる。形式だけでなく心から挨拶できるように意図をもって活動させていく。 ・生徒と教師が話をするときは必ず敬語を遣うようにさせる。正しい言葉遣いができるようにする。『もう一度敬語を遣っていきましょうか。』などと声をかけ指導していく。 ・挨拶ができる生徒が多い割合を増やすように教師から挨拶を増やすようにする。挨拶が返されなくても何度でもアプローチできるようにする。 ・声をしっかりとかけていく。特に目立たないような生徒は注視していくようにする。 ・ダメなことはしっかりとだめな理由をつたえていく。	A	・廊下ですれ違ったときに、適当な声の大きさと態度で挨拶する生徒が増えてきてとても感じがよい。 ・あいさつについては、日頃からの継続的な指導を意識されており、学校全体であいさつを大切にしようとしている取組が分かる。 ・道徳教育への取り組みやあいさつの状況から、豊かな心を育む教育ができていいると判断できるため学校全体が落ち着いてきていると思います。 ・あいさつを返してくれる生徒も多い。
	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	B	・「気づき」での共有を続ける。その中で、気になることについては『聞く』力をそれぞれの職員でも向上させる。	B	・教職員の中には、声が大きすぎる指導がまだ見受けられる。 ・威圧ではない指導になってほしい。日常の気づきを共有し合う取組を継続していることから、不祥事の未然防止に向けた意識の高さがうかがえる。 ・引き続き職員相互の声掛けを大切に、風通しのよい職場環境を築きながら、体罰や交通事故等の根絶に向けた取組を着実に進めていただきたい。 ・生徒との信頼関係を大切にしようとする先生方の姿勢がみられる。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	・「個に応じた支援」の適正化と線引き 相談部会の資料に書いてあるが、分量が多いため、現状の個別の対応の一覧のプリントを作成します。一度、可視化して、検討していきます。 ・保護者対応の基本方針 保護者の困り感に沿って対応をするが、授業や教員の勤務時間に支障が出ないような対応をしたい。学校の方針として出してほしい。 ・生徒の小さな変化をキャッチする仕組み 朝の会、帰りの会、給食指導などで生徒の小さなサインをキャッチし共有する。 ・相談室・学習室と学級担任の連携強化策 別室の利用生徒は夏季休業中の3者面談の際にさわやか相談員や教育相談主任も含めて面談を行う。	A	・相談室、学習支援室など、教室以外の生徒の居場所を準備している。組織的に不登校に取り組もうとされている姿勢がわかる。 ・日常の場面で生徒の小さな変化を捉え、共有していこうとする取組や、保護者の困り感に寄り添いながらも学校としての基本方針を明確にしようとしている点も成果を上げている要因だと感じる。 ・限られた時間の中において教職員間で協力した取り組みがなされている。保護者アンケートの結果から、保護者にもできること・できないことを理解してもらう必要がある。生徒に寄り添う学校になってきていると感ずる。
	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	B	・就学相談に向けて担当とコーディネーターで計画的に取り組む。 ・積極的に巡回相談の申込、利用をする。 ・特別支援教育に関する授業を交流学級で行う。 ・研修会を増やすのは難しい。そのため、普段の学びあいの研修の中で、「困っているけど相談できない」子にも目を向け把握し、その子に何ができるかを話し合っていく。	B	・支援を必要としている生徒はどのクラスにも在籍しているはずなので、全ての教職員が特別支援教育の理解と実施していくことを期待している。 ・コーディネーターとの連携や巡回相談の利用など組織的な支援体制づくりが図られていると感じます。引き続ききめ細やかな支援、配慮をお願いしたい。 ・校内研修が実施され、一人ひとりの特性に合わせた体制ができてきているため特別支援教育体制が整備されつつあると思うのでさらに特別支援教育全体の改善を期待したい。
家庭・地域との連携	10	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	A	・読み聞かせ等地域連携の際には十分連絡を取り合って、学校行事との兼ね合いを検討していく。 ・学校公開については保護者の意見も聞きながら適切な回数、時期を設定していく。	B	・職場体験の受け入れ先を探すのは苦勞も多いことと思うが、貴重な機会なので地域も協力していきたい。 ・もっと上手く地域の人材を活用できるようになるといい。 ・民生児童委員を行事に招待してもらえるのはありがたいが、学校の様子を聞く機会があると更にいい。 ・学校公開など保護者が学校に足を運ぶ機会を意図的に設定することは大変重要だと考えます。また、今後の教育活動の充実、部活動の地域移行に向け、地域人材の発掘、確保について情報共有できればと思う。 ・地域と連携した開かれた学校づくりや保護者の授業参観が多く行われており、アンケート結果からもそれらの結果が示されている。
小中一貫教育	11	本校は、小中連携を推進している。	B	・小中連携では、学習規律や学校のきまりを持ち寄り、お互い連携して考えていける部分を模索する部会の持ち方にする。 ・成長段階にあわせて協議し、どちらにあわせるのではなく、相互に関係できるものにしていく。	B	・新入生説明会を、親子参加にしてはどうか。中学校の様子や、準備について保護者だけではなく直接児童が聞く機会があるとよい。保護者だけに必要な話の間に部活動見学なども考えられる。引率されて小学校教員にも同席してもらうことによって、一緒に中学校の理解を進めることができるのではないかな。 ・限られた機会、時間の中ではありますが、何を連携していくのかを明確にしたり、9年間で目指す子供像を共有したりしていければと考えます。 ・さらなる情報や問題の共有が行われたり、共通した取り組みがされることを期待できるため ・小中連携はまだできることがあると感じています。